

アグリ **A G R I** | **W O R K** | **P O I N T**



肥料効果を
高めましょう！

茶指導販売課 亀山毅人

来年の一番茶に向けて

来春の母枝となる二番茶葉あるいは、四番茶葉を健全に生育させてください。この時期の管理状況が、来春の生産に大きな影響を与えます。

病害虫防除

8月中旬～8月下旬

チャハマキとチャノコカクモンハマキの防除時期です。特にチャハマキはダラダラ発生するので、発生量が多い場合は、2回の防除が必要です。

8月下旬～9月上旬

ヨモギエダシヤクの防除時期です。ヨモギエダシヤクはダラダラ発生するため、防除時期の予想が難しい害虫です。幼虫が大きくなると薬剤効果が落ちるので、体長が2cmになる前までに防除が必要です。

秋芽生育期

8月中下旬の少し涼しくなってきた頃に、カンザワハダニが発生することがあります。発生を確認したら、必要に応じて薬剤散布を行いましう。また、この時期に芽伸びが悪ければ、チャノミドリヒメヨコバイとチャノキイロアザミウマの被害が考えられます。葉が硬化してもチャノキイロアザミウマの防除が必要です。

土壌改良

茶樹の根の生育は、9～10月までが最も旺盛になります。土壌改良の時期は、山間地で8月中旬～下旬、早場所で8月中旬～9月上旬ですが、干ばつ状態であれば早く実施しても構いません。土壌改良の作業は、次の2つになります。

深耕作業

目的…土壌中に空気を入れやすくするため、うね間の土壌をやわらげて根の生育促進を図ります。

時期…新根が旺盛となる前の7月下旬～8月中旬頃までに実施してください。作業時期が遅れると根の生育が遅れ、樹の生育が抑制されてしまうので、充分注意しましょう。

方法…乾燥した状態での深耕は、乾燥を助長させてしまうため、降雨後に行ってください。生育不良の茶園は、深耕しないようにしましょう。

土壌改良材による土壌の酸性矯正

目的…安定的な良質茶生産のために、土壌改良材を施用し、土壌の酸性矯正を行ってください。

時期…7～8月頃の深耕前の施用が一般的ですが、夏期の深耕前と春肥の施肥前の2回に分けて施用します。石灰類の溶脱を抑制し、酸性矯正に効果的です。

方法…苦土セルカ2号などを10a当たり100kg程度施用してください。